

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）  
「日本考古学の国際情報発信強化」  
（課題番号：18HP2012）

学術団体名：一般社団法人 日本考古学協会  
学術刊行物の名称：Japanese Journal of Archaeology  
事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本考古学の国際情報発信は、平成25（2013）年度の英文機関誌Japanese Journal of Archaeology（以下、JJA）創刊を契機に、年二号の刊行を実現することを通じて、高水準のアカデミック・ネットワークを構築してきた。本取組では、これまでに構築したネットワークの発展的継承を通じて、日本考古学の成果の国際発信と国際貢献力の飛躍的増大を図るものである。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

海外編集委員も参加した編集会議の実施と、海外編集委員の指導により国内若手研究者の情報発信能力の育成をはかる。海外編集委員を加え国内研究者と共に組織する総会時のセッション（英語発表）に基づき特集号を作成する。国内編集委員が国際会議でセッションを組織し、JJAの宣伝活動とともに投稿を促す。また、『日本考古学』の優秀論文を英訳し、英文論文として日本考古学の国際発信を行う。これらの施策により、論考（論文・研究ノート・コメンタリー・最新報告）各巻号5本以上の掲載を目指す。合わせて若手研究者の国際発信能力の開発や日本考古学の国際発信のハブとしての機能の強化を行う。その成果をJJAに反映させ、JJAの一層の充実を図るとともに、日本考古学の国際化・国際貢献の飛躍的進展を図るものである。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

国内学会・国際学会及び拠点研究機関との連携の強化：平成30(2018)年度日本考古学協会大会においてプレナリー・セッション「東アジア農耕社会の中の弥生時代」、令和1（2019）年度には総会（5月18-19日）にて、セッション「先史時代狩猟採集民の景観考古学－交錯する時空間スケールからみた物質文化と持続可能性－」を開催し（ともに全編英語）、前者の成果は、JJA, Vol. 6と7に掲載した。若手研究者の国際発信能力育成：来日した海外編集委員・海外招聘のパネラーを加えたワークショップ「査読英文誌掲載を目指す論文執筆」を二回（東京開催）、また地方開催一回（九州大学）を実施し、すでに参加者からのJJAへの投稿論文がある。

JJAを起点とした国際的ハブの構築と日本考古学の国際発信：機関誌『日本考古学』の優秀論文の全訳、また、日本考古学協会大賞・奨励賞受賞作をこれまで3篇掲載し、日本考古学の先端の国際発信を行った。以上に加え、2016～2020年度各巻平均原著論文5.4の掲載水準となり（最新報告・年次レビュー（7.5）を加えると12.9）、5本以上の目標を達成した。査読者における海外査読者割合は、日本国内資料を対象とする論文について一名の国内研究者を入れたなどの事情から、各号平均61%となっている。編集委員は2019年度で国内5、海外14で74%であり、70%以上という目標をクリアした。

### ・今後の計画

・国内学会・国際学会及び拠点研究機関との連携の強化：2021年度にセッション「国家形成過程の国際比較研究」を開催、その成果を機関誌に反映させる。海外編集委員・海外招聘のパネラーを加えたワークショップ「査読英文誌掲載を目指す論文執筆」も年1、2回オンラインで開催を継続する。

・JJAを起点とした国際的ハブの構築と日本考古学の国際発信：機関誌『日本考古学』の優秀論文の全訳、日本考古学協会大賞・奨励賞受賞作要旨の英訳の掲載を継続し、日本考古学の先端の国際発信を行う。また日本考古学協会2019年度大会でのセッションの成果も2021年9月刊行の英文機関誌に反映させる。

・国際査読誌としてのJJAのさらなる強化を軸とした以上の事業の着実な実施を通じて、日本考古学の内発的国際化・海外発信をさらに定着・発展させる。

